

経営にインパクトのある 経営監査の体制を完成させる

「経営を支える内部監査の8つの重点課題とその対応策」〔第8回開催分（全8回開催）〕

- 日 時 ● 2015年7月7日（火）14:00～17:00
- 会 場 ● 東京・麹町 企業研究会 『セミナールーム』
- 講 師 ● 藤井 範彰氏 公認会計士・公認内部監査人

大手監査法人における約20年の会計監査への従事と10数年にわたる内部監査、内部統制、不正調査、リスク管理等のアドバイザー業務の経験を経て、2012年、新日本有限責任監査法人シニア・パートナーを退任。現在、ABボルボのコーポレートオーディット日本担当ディレクターおよびUDトラックス株式会社 監査役として内部監査の統括及び監査実務に従事。一方で内部監査関連の執筆、講演活動にも従事。近著に『内部監査の課題解決法20』税務経理協会。公認会計士、公認内部監査人、米国公認会計士（現在 inactive）。

●プログラム●

●講演／経営にインパクトのある経営監査の体制を完成させる <14:00-16:00>

経営を支える内部監査の最終章は経営監査の体制作りです。業務プロセスを中心とした業務監査に比べると、経営に近い領域で問題を提起し改善を促す経営監査は、経営へのインパクトが大きく、貢献度も格段と高いのは当然です。ところがその実務は日本ではいまだ根付いていません。むしろ内部監査の守備範囲を逸脱するとみなして遠ざけたり、経験・ノウハウ不足でうまくできていないケースが見られます。こうした経営監査の捉え方・進め方が実務のネックになっている状況を踏まえて、今回は経営監査が理論的にも内部監査の枠内できちんと説明でき、かつ実務的にも十分展開可能だということを実際の進め方や事例を紹介しながら解説いたします。また業務監査と違って経営判断に微妙に関連するところはケーススタディを通して具体的対処法を見ていきます。更に参考となる経営監査の成功例や失敗例を事例紹介を含めて検討いたします。

1. 経営監査の捉え方 —理論から実務展開まで
 - 伝統的な準拠性監査から経営監査への高度化と発展
 - 企業のガバナンスからみた経営監査の位置づけとケーススタディによる実務解説
2. 経営監査の進め方と実施上の課題
 - 子会社監査、本社間接部門監査 等
3. 経営監査アプローチの事例
 - ビジネスアプローチ、リスクとの関連付け 等

●講演をベースとしたディスカッション&総括コメント <16:00-17:00>

～参加各社の対応事例や現状の問題意識をシェアする中から課題解決のノウハウ、ヒントを探り実践に繋げていただきます～

●参加要領●

●受講料：1名（資料代含む）

正会員	28,080円	一般	31,320円
-----	---------	----	---------

〔本体価格 26,000円 本体価格 29,000円〕

* 会員企業一覧は以下の当会のホームページにて、ご確認ください。http://www.bri.or.jp

申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あて FAX または E-mailにてお送りください。

折り返し、受講票・会場略図・請求書をお送り致します。
※お申込後のキャンセルは原則としてお受けしかねますので、お申込者のご出席頂けない際は、代理の方のご出席をお願い申し上げます。

●申込先（社） 企業研究会

担当）居代 E-mail:ishiro@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麹町 5-7-2

TEL 03-5215-3516 / FAX 03-5215-0951～2

140188	2015 7/7 経営を支える内部監査の8つの重点課題と		
会社名			
住所	〒		
TEL	FAX		
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			